

# 小児科医師 中原利郎先生の

# 過労死認定を支援する会ニュース

## あなたの子供のいのち、 疲れ切った小児科医にまかせますか？



中原利郎先生が亡くなって五年目の八月を迎えました。  
**没後五年**を記念して「中原利郎先生への手紙」特集を企画しました。「支援する会」メンバーリストでの募集に応え、十九人が思い出

の中の中原先生、心の中の中原先生への思いを手に紙にしました。一ページから四ページまでまたが

る特集です。  
「支援する会」の発足から一年が過ぎました。昨年引き続き、今年も十一月に東京で「小児科医の過労を考える集会」を開きます。お知り合いもお誘い合わせの上多数おいでください。詳しくは一面の記事をお読みください。

中原先生の過労死・労災認定を巡っては、労働行政の手続きの中では最終的な段階になる労働保険審査会への**再審査請求**が五月二〇日に受理されました。これと並行して、国を相手取っての**行政訴訟**(労災不認定取り消し訴訟)も、この秋の提訴を目ざし、準備が進められています。これからますますの御支援をよろしくお願いいたします。

「小児科医の過労死を考える集会」 11月13日開催

東京・銀座の京橋プラザ区民館で

「支援する会」では十一月十日(土曜)午後二時から、東

京・銀座の京橋プラザ区民館多目的ホール(東京都中央区銀座一・二五・三)で、昨年に引き続き、第二回「小児科医の過労を考える集会」を開きます。

当日は、小児医療の危機的現状に関する講演(講師交渉中、詳細は追ってお知らせします)のほか、発足から一年の「支援の会」の活動を振り返り、

### 「小児科医の過労を考える集会」

#### 参加申込書(例)

(Fax to: 03-3541-1582)

集会に 参加 不参加 x  
懇親会に 参加 不参加 x  
人数: 集会 3人 懇親会 3人  
代表氏名: 中原の子  
連絡先住所: 東京都 区 1-11-6  
連絡先電話: 03-3\*2@-9773

弁護団からの報告などを予定しています。また集会終了後の午後五時から、隣の銀座ラフィナートに会場を移して懇親会(会費六千円)も予定しています。

会場の定員がありますので、御参加いただける方は、どうぞ事前にお申し込みをお願いします。

上図のような要領で必要事項を記入し、ファクス(03-3541-1582)または郵便(宛先: 〒104-0033 東京都中央区新川一ー一ー六 中原ビル内 小児科医師中原利郎先生の過労死認定を支援する会事務局)までお送りください。

多数のご来場をお待ちしております。

先生と最後に直接お話ししたのは、退職して数ヶ月で復職なんてするはずなのに、困りきった様子での「復帰する気はないかな?」というお電話でした。よほど困られているのだなと思いましたが、その二ヶ月ほど後先生が亡くなられたことを最初に聞いたとき、「自殺?」となんと退職するとき別の先生と「小児科医は結局リストラカ過労死ですわ」なんて話合っていたのが、まさか現実になるなんて。

先生と最後に直接お話ししたのは、退職して数ヶ月で復職なんてするはずなのに、困りきった様子での「復帰する気はないかな?」というお電話でした。よほど困られているのだなと思いましたが、その二ヶ月ほど後先生が亡くなられたことを最初に聞いたとき、「自殺?」となんと退職するとき別の先生と「小児科医は結局リストラカ過労死ですわ」なんて話合っていたのが、まさか現実になるなんて。

## 手紙

没後5年

中原利郎様へ

1

先生の子供の誕生日が近いのは偶然かもしれないけれど、子供の寝顔に私は誓いたいと思いません。

こんなまじがってるよね? おかあさんはこんな世の中をあなた達に残したくない、そのためにできることはしないと恥ずかしい、そうだよ。そう話しかけます。

医療者が充実して夢を持ちつづけながら働ける環境を医療の場に作るのには、よい医療のためには、絶対に必要なことですよ。先生が世に訴えたかったことは、ご家族と多くの方々が生懸命に訴えていかれています。私も本心にささやかなことしかできませんが、一緒に頑張りたいと思います。

佐山 圭子  
東京都 小児科医

# 紙 手

没後5年

中原利郎様へ

2

あの葬儀の席で、仕事上の事で自殺した話を耳にして、「そんな馬鹿な、何故だ？」と疑念を抱いてしまった。その後、事情やおかれた状況を聞くにつれ、うつ病に伴う止むにやまれぬオウンゴールだったと理解はできたが、君と同じフィールドに立てなくなった無念さを強く引きずっている。この時期、親族二人、サッカー仲間一人の命日が重なっているの、記念日的に君のことも思い浮かべると、弾丸小僧のような君のプレーが今でも鮮明に脳裡に浮かんでくる。

精神保健領域では、うつ病理解の啓発・普及を図る施策が端緒についたばかりですが、君の供養を兼ねて、私の立場で推進していく努力をしようと思っております。

合掌！

川島 道美 千葉県 精神科医 五五歳

あれから五年、月日の流れるのは早いですね。暑い日が続き、二十数年前に利郎先生と一緒にすごした灼熱のサッカーグラウンドが思い起こされます。練習、試合を問わず、体を張ったプレー、相手だけでなく自分に打ち勝つんだという強い意思の表れは、一緒にプレーしていたものとして、今でも強烈に思いだされます。

立っているだけで気力が失われていく灼熱のグラウンドでサッ

あの手紙を耳にして、「そんな馬鹿な、何故だ？」と疑念を抱いてしまった。その後、事情やおかれた状況を聞くにつれ、うつ病に伴う止むにやまれぬオウンゴールだったと理解はできたが、君と同じフィールドに立てなくなった無念さを強く引きずっている。この時期、親族二人、サッカー仲間一人の命日が重なっているの、記念日的に君のことも思い浮かべると、弾丸小僧のような君のプレーが今でも鮮明に脳裡に浮かんでくる。

精神保健領域では、うつ病理解の啓発・普及を図る施策が端緒についたばかりですが、君の供養を兼ねて、私の立場で推進していく努力をしようと思っております。

合掌！

川島 道美 千葉県 精神科医 五五歳

中原先生にお手紙を差し上げるのは、なんだか不思議な気がいたします。それなのに、とても身近な存在に思えるのは、いったいどうしてなのでしょう。

八月十六日は、これまで、戦争が終わって始めて迎えた朝だったんだなあと、昔すぎだった人のお誕生日だったなあと、ただそれだけの夏の一日でした。ところが、昨年、のり子さんと智子さん、秀之さんにお話を伺って、私にとっても、すっかりただ

あの葬儀の席で、仕事上の事で自殺した話を耳にして、「そんな馬鹿な、何故だ？」と疑念を抱いてしまった。その後、事情やおかれた状況を聞くにつれ、うつ病に伴う止むにやまれぬオウンゴールだったと理解はできたが、君と同じフィールドに立てなくなった無念さを強く引きずっている。この時期、親族二人、サッカー仲間一人の命日が重なっているの、記念日的に君のことも思い浮かべると、弾丸小僧のような君のプレーが今でも鮮明に脳裡に浮かんでくる。

精神保健領域では、うつ病理解の啓発・普及を図る施策が端緒についたばかりですが、君の供養を兼ねて、私の立場で推進していく努力をしようと思っております。

合掌！

川島 道美 千葉県 精神科医 五五歳

初めてコーチとお話したのは、和田小の小さなグラウンドの朝礼台の後ろで、「これ子供達に」

「千石」のステージ付きの部屋、

「どうぞ」と、たくさんのポカリスエットを下さった時です。先生はお忘れでしょう。

一番最近、富士見町駅前の

男子サッカー、残念至極！  
こんなことならお前と俺でオーバーエイジ枠で出たかったナー  
矢澤俊彦 東京都 僧侶



母親になれているのかしら。いのちをまもる現場で、医師が人として生きていられる日が、一日も早く来るように、自分の役割を考え、できることに取り組んでいきたいと思っております。

母親が困ったときにだけ頼るのではなく、普段の医師の勤務環境を知ろうとすることからわがかりあう。私は、そんなきっかけづくりをしていきたいです。

仁科 典子  
神奈川県 会社員 三〇歳

新聞記者出身の私も「原稿より健康」「死ぬときにはペンだけは握っておこう」などといってお互いに自重していましたが、実際には過酷な労働があり、さつきまで一緒に働いていた同僚が、帰りの通勤電車の中で、くも膜下出血で倒れ、そのまま帰らぬ人となりました。

読者への責任感などはなかった職場ですが、それだけに患者への責任感に追い詰められていた中原さんに胸が詰まります。「真犯人」は共通だと思えます。

秦 洋一  
茨城県 日本医学ジャーナリスト協会副会長 六三歳

中原利郎先輩、はじめまして、高橋克典と申します。

一年前に署名したのがきっかけで、支援の会の末席におります。一年たち、様々な意味で自分社会・家族・自分のために。その「想像力」の貧困さ・弱さに気づいていつか、何が変わるのか、変え付きます。毎日の現実に流されるのか、楽しみにしたいとる中で、中原さんをきっかけと思っております。

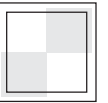
高橋 克典  
千葉県 公認会計士 三七歳

中学二年の僕たちは、今は流行らない横長のキスリングを背負い、若さにまかせて雷鳥沢から剣沢のキャンプ場へ入った。

明け方テントから抜け出して手が届きそうなくらい大きな星のまぶしさに驚き、芯のある米を炊き、雪渓を掬ってカキ氷を食べた1988年の夏。

あの頃の若い心もち続けていた君が逝った五年前から、夏になると思い出すのはあの若い日の笑顔です。

藤塚 主夫  
神奈川県 会社員 四九歳



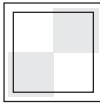
はじめまして、奥様ののり子さんの大学の時代のクラブの友人です。

学生時代の奥様はと言うと、多分現在と殆んどお変わりないと思いますが、それはいつも元気で陽気で明るく、アルコールの方も男性部員顔負けで相当強くいらしたように記憶しております。性格共々天性のものとお察しします。従って陰湿で暗いイメージの当クラブにあって体質的に僕にはピッタリでしたが、彼女は物足りなさを感じておられたかも知れません。先生がお亡くなりになってからも、彼女は努めて明るく陽気に三人の子供達を育てて仕事に生活に懸命に頑張っておられます。そして先生の遺志を社会に伝えるべく日々努力をしておられます。彼女の言動から一見して苦勞知らずの「ただのオバさん(失礼!)」風ですが、我々には彼女がどんなに辛い思いを乗り越えて来たかを僅かながらでも伺い知る事が出来ます。

それだけに我々も微力ながらでも力になってあげたい気持ちでいっぱいです。

どうか子供さん三人と奥様をこれからも見守り続けてあげてください。

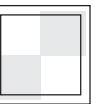
森 徹士 鳥取県 開業獣医師 四八歳



挑戦状！ 中原利郎殿、私はあなたが医師としてもつていた情熱・志を受け継ぎ、億単位の人を救えるような制癌剤の開発に力の限り挑戦することを誓います。

これが僕なりにあなたから受け取った熱いバトンです。

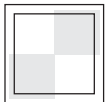
崎元 一平 東京都 制癌剤研究開発職 二八歳



お会いしたこともない中原先生へ 過疎地の一人勤務の市立病院小児科医を八年やりました。

同じ土地で開業した今も時間外を見る小児科医は一人。市立病院では、当直の先生がいったん診察し手に負えない時のみ呼ばれたのですが、小児科医の補充がつかず、休診中だからといって、時間外は電話のみで断ります。今はすべてこちらが診なければならなくなっています。数の少ない小児科医に、すべてを押し付けられれば、あなたの後を追うしかないと考えるのは、私だけでしょうか？

野田 隆 宮崎県 開業小児科医

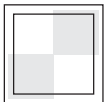


頑張らなければならぬ状況の中で、頑張り、頑張り、精根尽きるまで、頑張りぬいた中原先生の短すぎる一生を知りました。

季節労働者とも言われる小児科医は、忙しくなるとただでさえ休む暇がなくなりませんが、中原先生はその上、行政や経営上の都合で頻回の当直をしなければならなかったとのこと、その中で誠実な診療活動を続け、心身とも過労に陥ってしまわれたことが、容易に想像されます。先生が苦しまれた状況が、少しでもいい方向に変わるために、何かできるものがあればと、この会に入れて頂きました。

先生のご冥福をお祈りし、奥様、お子様たちのご健康をお祈りいたします。

仲村 和子 東京都 小児科開業医



中原先生、私はあなたにお会いしたことはなかったけれど、あなたの遺書には心を動かされました。

私もいまの医療に自分が殺されてしまわないか不安です。患者のためにひたすら頑張ることが患者のためになるとは思えない。

あなたの分まで私は現場の真実を伝え続けていきたいと思っています。

杉原 桂 東京都 小児科勤務医 三三歳

今日お墓参りにいきました。利郎おじちゃん、お水気持ちいいですか？

赤ちゃんの頃、いろいろ診てくれてありがとう。僕は、お医者にはなれないけれど、ひとのためにやくだつことをしたいです。

☆☆☆☆

親愛なる父上

ずっと私たちのことを見ているんだよね。

だからあえて近況報告はしません。

でもやっぱり伝えたい。

もつと家族に甘えてもよかったです。

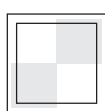
頑張りすぎなくてよかったんだよ。



父が亡くなって丸五年になります。私ももう二二歳。これから先、私の人生の中で、父と一緒に過ごした二七年の比率はほとんど小さくなっていきます。でも、私にとってかけがえのない思い出です。これから自分が医師として、娘として、何ができるのか見当もつきません。それでも私は前を向いて歩み続けます。

これからはもつと一緒に・・・

中原 智子 東京都 医学生 二二歳

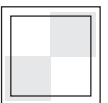


中原さん、五年前、私は貴方の名前も知らず、お会いしたこともなかった。なのにこの一年間、すでにこの世界にはいない

筈の貴方を身近に感じながら生きてきました。貴方を良く知る御家族や親しい友人の方たちが、面影を伝えてくれるせいもあるのでしょう。でも、私はもつと直接に、貴方が私の傍に

いて、私と対話してくれているように感じているのです。

中原さん、貴方は「あまりに貧弱な小児医療、その名に値しない救急・災害医療」と書いて亡くなったけれど、精神科医療も、内科医療も、麻酔科医療も、貧弱だ。やってられない、という悲鳴があちこちから聞こえてくる。四十二歳で医者になって十年の私も、いつまでやれるんだろう、



貴方の優しい気持ちに溢れた行動が、貴方を苦しめてしまったのですね。真面目過ぎる性格が、休むことを許さず、無理をさせてしまったのです。職場での先生の状況を見て、手を貸してくれる人は、いなかったのですね。社会は冷たかったですね。私では、中原先生の代わりは出来なかつた。何もお手伝いをする事が出来なかつたですね。

今、私が出ることは、貴方の残された遺志を広くみんなにお知らせし、先生の理想に近づけていきます。のり子さんと、お子様たち、またそれを支えてくださっている沢山の方々と一緒に先生の死を無駄にしないように戦っていくこと、それが私に出来る、小さなお手伝いです。

中原先生ゆつくりやすんじてください。

飯山 富夫 神奈川県

ライフコンサルタント

と自問自答しています。

自ら命を絶った貴方と、今こうしてまだ医療に携わっている私を、隔てるものは何だろうか？ つないでいるものは、何だろうか？ 貴方と同じ世界に住むようになるまで、きっとそんな対話を、貴方と続けていくことになるでしょう。

わけのわからない手紙になりました。でもまた書きますね。

九鬼 伸夫 東京都 内科開業医 五二歳



あゆみ

- ・平成11年8月16日 佼成病院小児科医師(小児科部長代理)中原利郎、佼成病院の屋上から投身自殺(享年44歳)
- ・13年9月17日 遺族、新宿労働基準監督署に労災保険法による遺族補償給付を申請
- ・14年12月26日 遺族、佼成病院を相手どり東京地裁に損害賠償請求訴訟を提起
- ・15年3月25日 新宿労基署、中原医師の自殺は業務上の事由によるものとは認められないとして労災保険法による遺族補償の給付をしない旨決定
- ・15年5月12日 遺族、新宿労基署の不支給処分取り消しを求め、東京労働局労災審査官に審査請求
- ・15年8月16日 「小児科医師中原利郎先生の過労死認定を支援する会」発足
- ・15年11月15日 「小児科医の過労を考える集会」開催
- ・16年1月8日 東京労働局に労災認定を求める11,703名分の署名を提出
- ・16年3月30日 東京労災審査官、審査請求の棄却を決定。
- ・16年5月20日 遺族、労働保険審査会に再審査を請求
- ・16年11月13日 第2回「小児科医の過労を考える集会」=予定

Noriko's のり子のメッセージ Message



急にいなくなった  
そっそかしいあなた・・・  
さらに多くの仲間と共に・・・

今年の夏は記録的な猛暑でしたが、皆さんお元気でお過ごしでしょうか。五年前のあの夏の日も、思い出したくなくらい暑い日でした。支援する会を設立していた

亡くなってしまった時には、あなたの強烈な人生観を支持していくつもりだったけれど、月日が経って、あなたがそっそかしかつたのよ、って恨

だきまして一年経ちました。この一年間に百三十人以上の「支援する会」のお仲間を迎えることができ、また二万人以上の方々の署名をいただきました。

でも、今度会ったときには『案外頑張ったね!』って言ってもらえるように、もうひと頑張り多くの方に支えていただきます。支援の会も二年目を迎え、皆様方には引き続きお世話になります。11月の集会では、小児医療改善に取り組む仲間を紹介したいと思いい準備を進めています。ぜひ会場でお会いしましょう。

短報 5〜8月

- ◎7月1日 雑誌「潮」7月号の記事「ルポ ニッポンの現実に中高年の自殺」に中原医師の件が4ページにわたり取り上げられる。
- ◎7月3日 「支援する会」役員会。1年目の総括と2年目の方針を協議。
- ◎7月30日 民事訴訟の第10回公判開く。未だ実質審理に入らず。
- ◎8月1日 東京保険医協会発行の「診療研究」誌に「小児科医・中原利郎氏の死が問われるもの」掲載。支援する会の九鬼伸夫・事務局長が執筆。
- ◎8月24日 「支援する会」役員会。11月に開く集会の準備。

仲間になつて  
ください!

◇「支援する会」に入会して、私たちが支えてください。連絡をいただければ、すぐに入会のご案内と会費の振込用紙をお送りします。会員には会の活動や裁

判の報告、当事者や支援者の声をお伝えするこの「ニュース」を、定期的にお送りさせていただきます。

問い合わせ先 「小児科医師 中原利郎先生の過労死認定を支援する会」事務局 東京都中央区新川一・一・六 中原ビル 電話 090-9975-9577

紙 手

没後5年  
中原利郎様へ 4

まな賞賛を浴びることが多いけれども、時として孤立し、あらゆる負担を一人で背負うことになるようだ。必死で頑張るけれども、周りからは「勝手にやって・・・」と思われる。利郎と自分はその痛みを解りあえていたせいだと思ふ。そんな性格を知っていたら、もっと積極的に会いに行かなくてはならなかったのに・・・

「辛かったらうな・・・本当にごめん。」五年たった今でも自分にはそんな言葉しか見つからない。

自分が過剰適応ゆえに苦しみ散々他人に恨み言を言っているときに利郎はそういう自分をよく思っていたんじゃないかと思ふし、利郎はどんなときも、他人の悪口を言わなかったし、人を恨むことはしなかったと思ふ。

今、自分の仕事は十万人市民相手の健康づくりの仕事です。ジャンルという行政ですの

で、利郎を苦しめた側の人間かもしれない。小児科の医療でいうと、乳幼児健診や予防接種関連での連携、小児科救急に対する補助金のシステムにかかわるところなどです。

利郎のことを思い出した時に自分は思っています。「自分が今出来るのはみんな力で力を合わせてみんなが幸せになれる世の中を作ること。誰かの好意に任せるのではなく、皆で平等に支えあうシステムにすること。」

國枝 寛 埼玉県 公務員 五五歳

◇「支援する会」のメンバーリストがあります。参加ご希望の方は、会費振込用紙の通信欄にその旨お書き添えください。◇「支援する会」のホームページには、故中原医師の遺書や、マスコミに紹介された記事なども掲載しております。周囲の方にも御紹介ください。http://www5f.biglobe.ne.jp/~nakahara/